

令和7年度 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童支援事業所ぷらみんぼーと			
○サービス	放課後等デイサービス重症心身障害			
○作成日	令和8年2月17日			
○保護者評価実施期間	令和7年9月17日 ~ 令和7年10月16日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	令和7年11月27日 ~ 令和7年12月12日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	5名

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用時間の柔軟性	最大9:30~18:30（自主送迎の場合）の利用が可能である。医療的ケアが増設した為、学校に毎日通えない場合は午前中からの預かりを行っている。	今後も継続していく
2	自己選択できるような支援	意思決定支援の研修をほぼすべての職員が受講している。自分でやりたい遊具を選択する機会を作る等、日常的に子ども自身で決める機会を作っている。	記録の取り方、まとめ方が統一されていない為、今後検討していく。
3	活動内容の充実	毎月絵本をテーマにした活動や制作を行っている。また、学校が休みの場合はうめとぴあカフェでのおやつを取るなどを行っている。	毎月活動の実施状況を振り返る機会を設けているため、今後も継続していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会	見学会などは行なっているが、保護者同席のイベントなどは行なっていない。	交流するイベントを検討する。
2	事故マニュアル・緊急時マニュアルなどの事業所マニュアルの保護者への伝達	サービスの変更点などは都度保護者に手紙を配布しているが、体調不良や怪我などの緊急事態にならない場合は保護者の認知度が低い。	手紙などで周知していく。
3	スペースの活用方法	重症心身障害児対象に使用できる部屋が狭く、全員が臥床できるスペースが取れない。	物品の置き場所等を都度工夫していく。